

## 奈良県内のカネコトタテグモの新産地と観察記録

関根 幹夫

A new locality record and notes on the trapdoor spider, *Antrodiaetus roretzi*,  
from Nara Prefecture

Mikio Sekine

### はじめに

カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch 1878) は、林縁や林道沿いのあまり日の当たらない土の崖に、深さ 10~20 cm の横穴を掘り、入口に両開きの扉（観音開き戸）をつける。扉は周囲の地表によく似せてつくり、ぴったりと閉じられていると非常に発見しにくい。本種は、山形県、岩手県以南から兵庫県、岡山県までの間で局地的に生息しており（千国 1989）、環境省の準絶滅危惧（NT）に指定されている（西川 2014）。奈良県では、奈良公園の春日山遊歩道・月日亭付近の 1 ヶ所での生息が報告されているが（金野・畑守 1994）、この生息記録以後、20 年以上確認情報が無く、その後信頼すべき調査が行われていないため、奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版では、絶滅寸前種に選定されている（関根 2017）。

今回、奈良県内における本種の新たな生息地を確認したのでここに報告する。

### 新産地と観察記録

〔地点 A〕 2021 年 3 月 27 日、奈良県生駒郡三郷町立野、34°36'13.08"N, 135°40'44.65"E, 標高 227 m において、本種の住居 1 つを確認した。住居は、横に這った木の根の下で、雨水のかからない北向きの崖地の地表から約 40 cm の高さにあった（図 1）。ぴったりと閉じられている扉を開くことにより、本種に特徴的な観音開き戸を確認することができた（図 2）。住居入口の口径は 12 mm であった。翌朝に住居を確認すると、住居入口の扉は閉じていた。このことから、本種は夜間に扉を閉じるということがわかった。

本種の横穴は、木の根や岩石によって上下左右に曲がって延びているものが多い（新海 2017）、調べるのが難しいことから、種の保全を考慮し、採取せずに観察を行うこととした。複数回にわたり夜間観察を行ったが、本種は、横穴の奥に居て住居の入口には出てこなかった。本種は、夜間に扉の内側まで出てきて、前を通る昆虫やワラジムシなどを跳び出して捕えると報告されていることから（新海 2017）、ダンゴムシを住居入口付近に放したが、クモは住居から出てこなかった。

本種が活動する時間帯は何時ごろであろうか。岐阜県山県郡高富町において、本種の扉の作成行動を 1998 年 8 月 3 日夜から翌 4 日未明の間、ビデオ撮影をした報告が



図 1. 横に這った木の根の下，雨水のかからない北向きの崖地につくられたカネコトタテグモの住居（円内）.



図 2. カネコトタテグモの両開きの扉（観音開き戸）を開けたところ.

あり，扉を除去した後，本種が扉をつくる過程は，午後 7 時 55 分から午後 10 時 49 分の間であったと報告されている（永井・新海 1999）.

この報告を参考に，本種の観察を行ったところ次の結果が得られた.

1) 4 月 20 日午後 8 時 13 分（気温 13℃，晴天で月明かり）. 住居入口の扉を開き，

ヘッドランプで照らしながら観察を開始した。

- 2) 同日午後 9 時 26 分. 扉が閉じかかったので, 住居入口を撮影した (図 3). 住居入口の扉は, 見ている間に閉じた (図 4).

**[地点 B]** 2021 年 4 月 23 日, 奈良県生駒郡三郷町立野, 34°36'11.52"N, 135°40'58.97"E, 標高 197 m において, 本種の住居 1 つを確認した. この地点 B は, 地点 A から東へ 380 m 離れた位置にある. 住居は, 木の根元で雨水のかからない, 北向きの崖地の地表から約 90 cm の高さであり, 住居入口の口径は 15 mm であった.

地点 B における観察結果を以下に示す.

- 1) 4 月 23 日午後 1 時 35 分 (気温 23°C, 晴れ). 住居入口の扉を開けておいた.
- 2) 同日午後 8 時 35 分 (気温 14°C, 晴れ). 扉は閉じていた. 再び扉を開き, ヘッドランプで照らしながら観察を開始した.
- 3) 同日午後 9 時 13 分 (気温 14°C, 晴れ). クモは一瞬にして扉を閉じた. 観察を終了し, 再び扉を開けておいた.
- 4) 翌日 24 日午前 4 時 39 分 (気温 13°C, 晴れ). 扉は閉じていた.

この後, 複数回にわたり夜間観察を行ったが, 住居入口の扉が閉じられるところを観察することはできなかった. いずれの場合も翌朝には住居入口の扉は閉じていた.

- 5) 5 月 6 日午後 7 時 45 分 (気温 15°C, 曇り). 住居入口の扉を開き, ヘッドランプで照らしながら観察を開始した.
- 6) 同日午後 10 時 25 分 (気温 14°C, 曇り). 観察を終了した. 観察中, 住居入口の扉は開いたままであり, 変化はみられなかった.
- 7) 翌日 7 日午前 10 時 5 分 (気温 19°C, 曇り). 扉は開いたままで変化はみられなかった. この住居入口の右下隣に, 新たな入口がつけられていた (図 5). 写真撮影のため, 新たな入口の扉を開けた後, 扉は開けたままにしておいた.
- 8) 同日午後 3 時 40 分 (気温 16°C, 小雨). 開けたままにしていた新たな住居入口の扉は閉じていたが, 以前の入口の扉は開いたままで変化はみられなかった.
- 9) 翌々日 8 日午前 8 時 31 分 (気温 18°C, 晴れ). 以前の入口の扉も閉じていた.

## 考 察

観察結果 7) について: 何度も扉を開けられたことから, クモはこの入口の扉を閉じることを止め, 新たな入口と扉をつくったものと思われる. すなわち, カネコトタテグモは, 住居入口への度重なる干渉を受けると, 新たな入口と扉をつくると考えられる.

観察結果 9) について: カネコトタテグモの天敵の筆頭はムカデであり (吉倉 1987), トタテグモ類の天敵として, タマゴクロバチ科やクモバチ科 (旧ベッコウバチ科) のハチ類が知られている (高須賀 2015). このような外敵に対して住居入口の扉を開け



図3. 住居入口の扉を閉じるカネコトタテグモ.



図4. カネコトタテグモによって住居入口の扉は閉じられる.

たままにしておくことは、無防備と思われる。2つの住居入口を持つことになった地点Bのクモは、住居入口の扉を閉じる行動に時間差はあったものの、両方の住居入口の扉を閉じた。これは、外敵防御の行動と考えられる。



図 5. カネコトタテグモの扉が開いたままの住居入口（左上）と撮影のために扉を開けた新たにつくられた住居入口（右下）。

#### 引用文献

- 千国安之輔 1989. 写真日本クモ類大図鑑. 偕成社, 東京.
- 金野晋・畑守有紀 1994. 奈良公園のトタテグモ類. Pp. 188–192. In: 奈良公園の自然. 奈良教育大学, 奈良.
- 永井均・新海明 1999. カネコトタテグモの扉づくり. *Kishidaia*, 77: 35–39.
- 西川喜朗 2014. カネコトタテグモ. P. 57. In: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編). レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—7 その他無脊椎動物 (クモ形類・甲殻類等). ぎょうせい, 東京.
- 関根幹夫 2017. カネコトタテグモ. P. 340. In: 奈良県レッドデータブック改訂委員会 (編). 大切にしたい奈良県の野生動植物—奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版—. 奈良県くらし創造部景観・環境局 景観・自然環境課, 奈良.
- 新海栄一 2017. 日本のクモ 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 高須賀圭三 2015. クモと天敵. Pp. 61–81. In: 宮下 直 (編). クモの科学最前線. 北隆館, 東京.
- 吉倉 眞 1987. クモの生物学. 学会出版センター, 東京.